

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和7年度 板野支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立板野支援学校 校長 小谷 慎一

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭 教頭	小谷 慎一 都築 睦美 原田 真由美
学力向上推進員	教諭(研究・自立活動課長)	吉田 仰
委員	教諭(小学部長) 主幹教諭(中学部長) 教諭(高等部長) 教諭(教務課長)	槇納 みのり 前林 宏典 葉坂 佳彦 石川 瑞絵

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	学校と家庭、関係機関等が連携し、実態に応じた支援を受けながら学校生活を送ることができている。	課題 支援を受ける機会が多く、受け身になりやすい児童が多い。そのため、主体的に活動したり、課題に取り組んだりすることが難しいことがある。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
教師との関わりや学習活動において、自分の思いや要求、報告等を自分なりの方法で伝えることができる。		各学級で1事例選び、他者との関わりやコミュニケーションに関する個別の指導計画の目標の達成率が8割以上(19事例中15事例以上が達成)となる。	各学級が挙げた全ての事例において、対象の個別の指導計画の目標の評価が「できるようになった」の評価であった。(個別の指導計画の目標化していない1学級と1月転入の学級はその他の指導目標で評価し全20事例) ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①個別の指導計画や授業実践に関するケース会を学習グループごとに実施し、よりよい支援を検討する。 ②各教科や自立活動について研修し、専門性の向上を図る。 ③実態に応じたコミュニケーション方法や表出方法を検討する。 ----- * 中間期の見直し		①学習グループごとに個別の指導計画立案や授業改善のためのケース会をそれぞれ2回以上実施する。 ②各教科や自立活動に関する対面やリモート、e-ラーニング研修を1回以上受講する。 ③発達検査を実施し、的確に実態把握を行う。	①各学習グループで2~3回、多いグループは10回以上ケース会を行い、よりよい支援について検討した。 ②教師各自が、夏季休業中を中心に各教科や自立活動に関する様々な形態の研修を1回以上受講した。 ③事例児童の発達検査や行動観察を行い、児童の実態に応じたコミュニケーション方法や表出方法について検討し、実践に取り入れた。
達成状況を踏まえた改善事項			
事例児童の実態は様々であるが、教師に対して自分の思いを表情や身体の動きで表出したり、困難な状況で援助要求を出したり、材料不足や作業終了の報告ができるようになった。また、4事例では、友達と相談や話し合い活動を行い、自分の思いを友達に伝えることができるようになった。今回身につけた「伝える力」を様々な場面に般化していき、児童がさらに主体的に学んでいけるよう、よりよい支援を検討していきたい。			

(中 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況

中 学 部	発達段階や身体的状況、生活経験の違う生徒が在籍しているが、これまでの学習の成果を発揮し、個々の目標に向かって学ぶことができている。	課 題	中学部卒業後や将来の生活を思い描き、社会生活や職業生活に必要な基礎的スキルを獲得していくとともに、主体的に行動したり学んだりする態度を身につけていく必要がある。
-------------	---	--------	--

具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
自分の役割を主体的に果たすために、自分の良さを伸ばしたり、課題を改善・克服したりすることを通して、自信を持って新しいことにチャレンジすることができる。	「自立活動の時間における指導」の学習グループ毎に対象生徒を決める(10名)。自立活動の指導立案シートを作成し、指導実践に取り組む。その指導目標の達成率が8割(8名)以上となる。	10の学習グループを作り、それぞれ対象生徒を決めて1事例ずつ指導実践に取り組んだ。10事例に取り組む10事例ともに目標を達成した。(100%の達成率) <hr/> 評価 A

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①自立活動の指導立案シートの作成を通して、生徒の実態や支援方法、指導目標や手立てを立案・共有し、指導目標達成に向けた実践に取り組む。 ②生徒の課題に応じた外部専門家(OT、PT、ST、FC等)を活用し、課題の改善・克服に向けた取組について教師間で共有し、指導に取り組む。	①-1 学習グループ毎に対象生徒を1名決め、自立活動の指導立案シートを作成する。 ①-2 作成したシートを基に実践に取り組み、進捗状況や支援方法について共通理解する事例検討会を2回以上行う。 ①-3 指導目標達成状況を共有するための事例報告会を実施する。 ②外部専門家を活用し、指導目標達成に向けた指導助言を中学部全体で年間20事例以上いただき、実践に生かす。	①-1 学部内で10の小グループを編成し、対象生徒を1名ずつ決めて自立活動の指導立案シートを作成した。 ①-2 9月から12月の間に作成したシートを基に実践に取り組んだ。実践の進捗状況や支援方法について共通理解するための事例検討会を9月と11月の2回実施した。 ①-3 1月に指導目標達成状況を共有するための事例報告会を実施した。 ②外部専門家を活用し、指導目標達成に向けた指導助言を中学部全体でST11事例、PT15事例、OT9事例、のべ35事例の助言をいただき、実践に生かすことができた。
* 中間期の見直し		

達成状況を踏まえた改善事項

事例研究を行うことで、一人一人の実態を深く知ることができ、実態に応じた支援や指導を行うことを通して、全ての事例で目標を達成するなど指導の成果を挙げるすることができた。自立活動の指導立案シートを作成して、グループで実践に取り組むことで、指導目標や実践内容を共有したり、困った時に相談したりするなど、チームとして同じ方向性で事例に取り組む姿も見られた。これからも教員の専門性を高めることを通して、生徒の学力向上につなげたい。

(高等部) 幼児児童生徒の状況		
<p>発達段階や身体的状況、生活経験の違う生徒がそれぞれお互いを認め合い、課題を共有しながら集団生活を送ることができている。</p>	<p>課題</p>	<p>進路決定に関わる客観的評価を理解し、社会的自立に向けた課題に自ら取り組もうとする態度を身につけることが課題である。</p>
<p>具体的目標(目指す子どもの姿)</p>	<p>成果指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>作業学習や自立活動等での体験的かつ実践的な活動を通して、達成感や成就感及び進路に関する経験や就業に対する意欲の向上を図る。</p>	<p>教師が1ホームルームにつき1名を選定し、評価項目「日常生活・態度・社会参加」に対する事前評価と事後評価を行う。評価が「現状維持もしくはは向上」で、高等部全体において8割以上となる。地域連携プロジェクトの活動後感想を書く機会を適宜設け、達成感や成就感を持てているかを教師間で共有、確認できるようにする。</p>	<p>各学級から1名ずつ、15名の生徒について比較評価を行った。評価が下がった生徒はならず、向上率が82%を超えている。プロジェクト後の生徒感想からも、継続して取り組みたいという結果(6名中5名)であり、意欲や成就感を感じることができた。</p> <p>-----</p> <p>評価 A</p>
<p>具体的方策(教員の取組)</p>	<p>取組指標</p>	<p>取組状況</p>
<p>①キャリア教育の一環として、地域連携プロジェクトを実施する。活動としては(1)枳富歯科(清掃活動)・(2)日亜化学工業植栽(花の植栽)・(3)コープ自然派ともに(B型事業所での農業体験)・(4)規格外にんじんプロジェクト・(5)ショートジョブ活動(小・中学部との作業体験活動)とする。</p> <p>②特別支援学校コンサルテーションに参加し、自立活動や作業学習、就業体験との連携による学習活動の評価と、フィードバックすべき課題を確認し、実践結果を教師間で共有する。</p> <p>* 中間期の見直し</p>	<p>①生徒の実態に応じて、左記(1)～(5)の活動への参加を行う。規格外にんじんプロジェクトであれば、加工や接客への直接参加・おもてなしカフェやキッチンカーイベントへのお客さんとしての参加とする。</p> <p>②学部研修会もしくは学部会の機会を設け、コンサルテーションの結果や課題を教師間で共有し、指導に反映できるようにする。</p>	<p>①(1)～(5)の活動を実施した。(3)～(5)の活動については、学校全体の活動として実施することができた。</p> <p>②コンサルテーションの結果を学部研修会で共有し、自立活動や作業学習の時間で指導に反映した。目指す子どもの姿に関する事後評価からも、言葉遣い等の「態度面」や、自主性・積極性を示す「社会参加」の数値が向上しており、一定の成果は得たと考える。</p>
<p>達成状況を踏まえた改善事項</p>		
<p>コンサルテーションの取組(自立活動や作業学習での取組)が、教師の指導意識向上につながり、目指す子どもの姿に関する事後評価の数値向上にも繋がっている実感を持つことができた。キャリア教育での実践的な活動も、今後も継続していくことで、より一層生徒自身の意識向上に繋がると考える。就業体験時の指導及び意識向上に繋がるような般化を図ることも今後必要である。また、実態の異なる事例での検討を行うことで、それぞれの実態に合った支援に繋がるよう取り組んでいきたい。</p>		

